認証評価を自己評価する

～大学評価・学位授与機構の認証評価の総括～

2008年5月30日

大学評価・学位授与機構

大学評価・学位授与機構が行う大学機関別認証評価の特色

- 会員制でなく、全ての大学が対象
- 教育評価が中心
- 評価単位は大学
- 分野別評価ではない
- 情報は全て公開

大学機関別認証評価の実績

- 2005年度
  国立大学 2、公立大学 2、公立短期大学 2
- 2006年度
  国立大学 7、公立大学 3、公立短期大学 1
- 2007年度
  国立大学 38、私立大学 1、公立短期大学 1、
  私立短期大学 1
- 2008年度予定
  国立大学 4、公立大学 5、私立大学 2、
  公立短期大学 2

大学機関別認証評価の目的

- 認証評価機関が定める大学評価基準に基づいて、大学を定期的に評価することにより、教育研究活動等の質を保証する。（Accreditation）
- 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、教育研究活動等の改善に役立てる。（Evaluation）
- 大学の教育研究活動等の状況を社会に分かりやすく示す。（Accountability）

大学評価・学位授与機構が行う大学機関別認証評価の基本的な方針

1. 大学評価基準に基づく評価
2. 教育活動を中心とした評価
3. 各大学の個性の伸長に資する評価
4. 自己評価に基づく評価
5. ピア・レビューを中心とした評価
6. 透明性の高い開かれた評価

11の基準

- 基準1　大学の目的
- 基準2　教育研究組織
- 基準3　教員及び教育支援者
- 基準4　学生の受入
- 基準5　教育内容及び方法
- 基準6　教育の成果
- 基準7　学生支援
- 基準8　施設・設備
- 基準9　教育の質の向上及び改善
- 基準10　財務
- 基準11　管理運営

評価の実施体制

- 大学機関別認証評価委員会：国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者から構成される。
- 評価部会：評価委員会の下に設置され、具体的な評価を行う。対象大学の学部等の状況に応じ、必要に応じて分野の専門家等を配置する。
- 評価チーム：評価部会の中に、対象大学毎に主査と数人の専門委員から成る評価チームを編制する。
- 運営小委員会：各評価部会間の横断的な事項や評価結果（原案）の調整等を行う。評価部会長と機構教員で構成。

訪問調査

2005、2006年度

- 1日目の昼から3日目の昼まで
- 全キャンパス訪問を原則とした

2007年度

- 1日目の朝から2日目の夕方まで
- 主キャンパス及び主キャンパスに近接するキャンパスのみの訪問を原則とした

「優れた点」「改善を要する点」「更なる向上を期待する点」

「個性の伸長に資する評価」をするために、「優れた点」「改善を要する点」「更なる向上を期待する点」を積極的に指摘する。

「優れた点」

- 特色ある取組
- 大学の目的・目標に照らして、優れている点
- 大学改革への先進的な取組
- 一般的見地から見て、優れていると思われる点

「改善を要する点」

- 法令違反状態にあり、速やかに改善すべき点
- 法令違反状態とまではいえないが、速やかに改善が必要であると思われる点
- 一般的見地から見て、改善が必要と思われる点
- 大学の目的・目標に照らして、改善が期待される点

「更なる向上が期待される点」

評価の過程において、「改善を要する点」の中などから、「更なる向上が期待される点」を取り上げることがある。

- 当該大学の目的に照らして、更なる向上が期待される点
- 「Good」を「Excellent」にする取組に着手しており、ある程度の成果が上がっていることが前提。
- 頑張れ！　もう一歩で「優れた点」になれる！

評価結果

- 観点毎に対象大学の状況を記述し、それに対する判断を行う。
- 基準毎に「満たしている」「満たしていない」の判断を行う。
- 「優れた点」「改善を要する点」「更なる向上が期待される点」を積極的に指摘する。
- 11の基準を全てを満たしている場合に、「大学評価・学位授与機構が定める評価基準を満たしている」と評価する。
- 評価結果は全て公表する。

認証評価を受けることによる効果

- 教育に対する組織的取組の必要性が認識される。
- 部局間の壁、教員間の壁が低くなる。
- 学内における基本的情報の収集、整理、共有化が進む。
- 大学の自己評価力が大幅に向上する。

認証評価を受けたことによる効果

- 「優れた点」「改善を要する点」「更なる向上が期待される点」の指摘により大学の個性・特色が明確になり、改善につながる。
- 評価結果、特に「改善を要する点」に対するフォローアップは実施していないが、多くの大学において、評価を「活用」して自主的な改善が行われている。
- 認証評価が、大学教育の改善に活用されている！

これまでの認証評価において
留意した点・難しかった点

- 目的・目標に照らして評価する
- 「木を見て森を見ない」評価をしない
- 設置基準に照らしての判断
  - ◆設置基準上必要とされる教員数
  - ◆主要科目を専任の教授、準教授が担当しているか

反省して改善した点

- 観点が多過ぎる ➔ 観点の整理･統合
- 観点が分かり難い ➔ 分かり易い表現に変更
- 例示が「圧力」になる ➔ 例示の見直し
- 添付資料が多過ぎる ➔ 必要最小限に

更に改善すべき点

- 「評価力」を備えたピアの育成が必要。
- 評価が業績として評価されることが必要。
- 評価のコスト・パフォーマンスを高めること！

大学単位の評価では・・・

- 単科大学

  分野別の詳しい評価

- 総合大学

  広く浅い評価になり、全ての分野には目が届かない。

同様な教育を実施していても･･･

大学の規模によって、評価の「密度」が異なる。典型的な例として

- ○○県立看護大学

  看護分野に関する詳しい評価

- △△大学医学部保健学科看護学専攻

  看護分野に関する具体的な言及無し